

* 外部公開版 *

この報告書は新潟大学に対して提出したものを再編集したものです。
個人情報等の関係により、一部資料・写真等を削除しておりますのでご了承下さい。

平成 26 年度前期 活動報告書

平成 26 年 10 月 14 日

新潟大学学生ボランティア本部 ボランち。

目 次

1. はじめに	3
2. 主な活動の一覧	4
3. ボランティアニーズ・参加人数等の報告と分析	5
4. 各プロジェクト報告	11
データ管理プロジェクト	12
掲示板プロジェクト	14
メールマガジンプロジェクト	16
5. 研修会・ボランティア参加報告	17
ボランち。パワーアップ研修	18
災害ボランティアセンター設置訓練	27
学内ゴミ拾い散歩	29
コスポ学習支援ボランティア	30
大学南が丘自治会 防犯パトロール	31
6. スタッフ総括	32

以下この報告書では、“新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」”を“当団体”と表記します。

1. はじめに

当団体は、2004年7月13日に新潟の県央地域を襲った『7.13水害』に対して、「新潟大学の学生として出来ることをしよう」と有志の学生が集まったのが始まりです。そして同年、10月23日に発生した『新潟県中越大地震』に対して、よりスムーズに学生がボランティア活動に出来るようにと、当団体の前身として「新潟大学災害ボランティア本部」が結成されました。その後、災害ボランティアに限らず様々な分野のボランティアに学生が参加出来るようにと、名を改め「新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』」となり、現在に至ります。

2004年の震災から10年。そして、発足から10年の節目を迎えた今年、当団体は自らの存在意義を見つめなおし、新たな価値を生み出せるよう、様々なことに挑戦して参りました。

先輩方が10年間積み上げてきたものを大切にしながら、私たちはボランティアを通じて学生と社会をつなぐことで、地域社会やこれからの未来がより良いものになるよう、学生にも地域にも、働きかける存在でありたいと思っています。

私たちの活動は、たくさんの方の手によって支えられています。いつもご支援くださる新潟大学学務部学生支援課の皆様を始め、私たちを支えてくださるすべての方々に感謝の気持ちを申し上げます。

平成26年10月14日

代表 角野仁美

2. 主な活動の一覧

【通期】

ボランティアコーディネート活動（平日昼休み～4限；シフトを決め、カウンター運営）

【4月】

- 1～11日 内野小学校花見申請期間
- 11～20日 内野小学校花見パトロール
- 14日 第1回新入生説明会
- 22日 第2回新入生説明会

【5月】

- 1日 第1回学内ごみ拾い散歩
- 10日 スタッフミーティング
- 15日 西区一斉クリーンデー
- 17日 内野小学校桜の手入れ
- 19日 子ども学習支援事業「子ども勉強会」説明会
- 28日 学生支援課さんとの懇親会

【6月】

- 8日 大学南ヶ丘自治会防災訓練・スタッフミーティング
- 21日 なかよし海岸清掃
- 23日 スタッフミーティング
- 25日 第2回学内ごみ拾い散歩
- 29日 ボランティアコーディネート研修会

【7月】

- 2日 大学南ヶ丘自治会防犯パトロール
- 6日 災害ボランティアセンター設置訓練
- 8日 スタッフミーティング
- 16日 大学南ヶ丘自治会防犯パトロール

【8月】

- 6日 西区一斉クリーンデー・大学南ヶ丘自治会防犯パトロール
- 8日 スタッフミーティング
- 9日 大学南ヶ丘自治会夏祭り
- 20日 大学南ヶ丘自治会防犯パトロール

【夏季休業中】

週1～2回程度シフトを決め、カウンター運営

【9月】

- 3日 大学南ヶ丘自治会防犯パトロール
- 17日 大学南ヶ丘自治会防犯パトロール
- 29日 スタッフミーティング

3. ボランティアニーズ・参加人数等の報告と分析

【概要】

当団体は、本年度から PC を用いたボランティアニーズのデータベース化、参加人数の集計を行っています。(詳細は 12 ページ「データ管理プロジェクト」で報告します。) これらの取り組みを始めた目的の一つには、こういった種類・傾向のニーズが多く、学生はどういったボランティアに参加しているのかを把握し、それらの結果を今後のコーディネート活動に活かすことがあります。今回は、その第一歩として本年度前期に当団体へ届いたニーズや当団体を通してボランティアへ参加した学生の人数等について集計し、スタッフでそれらの結果を分析しました。その結果を報告します。

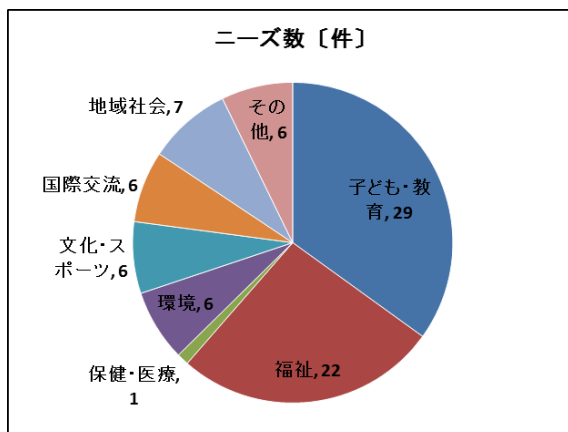
【結果】

平成 26 年 9 月 27 日現在のボランティアニーズの一覧および参加人数等を示した一覧表を 9 ページ「平成 26 年度前期 ボランティアニーズ一覧」に示します。これらのデータをもとに、①ボランティア分類別、②活動日別、③活動場所別、④交通費などの支給の有無によってそれぞれニーズ数と参加人数を集計しました。これらの結果を以下に示します。

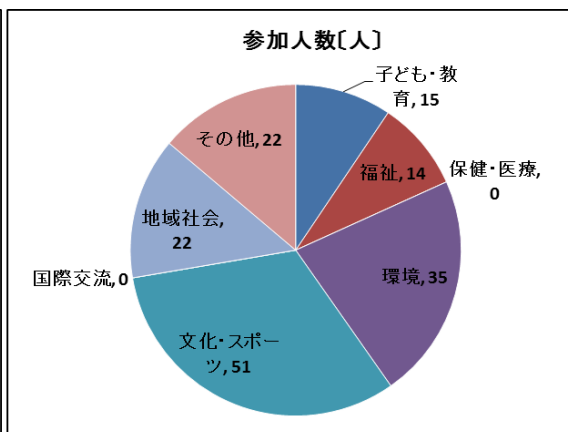
- ・各表および図の「参加人数」は、当団体スタッフの参加人数とスタッフ以外の学生（以下、一般学生と呼びます。）の参加人数を合計した人数です。
- ・①ボランティア分類については、10 ページの別表をもとに各ボランティアを分類しました。
(ただし、4.「教育・文化・スポーツ」のうちの「教育」を0.「子ども」へ移しました。)
- ・②活動日について、複数月にまたがるもの及び 10 月以降のものはその他として集計しました。
- ・③活動場所について、複数あるものは一番遠い場所で集計しました。

①ボランティア分類別

■分類別	子ども・教育	福祉	保健・医療	環境	文化・スポーツ	国際交流	地域社会	その他	計
ニーズ数(件)	29	22	1	6	6	6	7	6	83
参加人数(人)	15	14	0	35	51	0	22	22	159
うち一般学生(人)	9	11	0	8	39	0	9	2	78



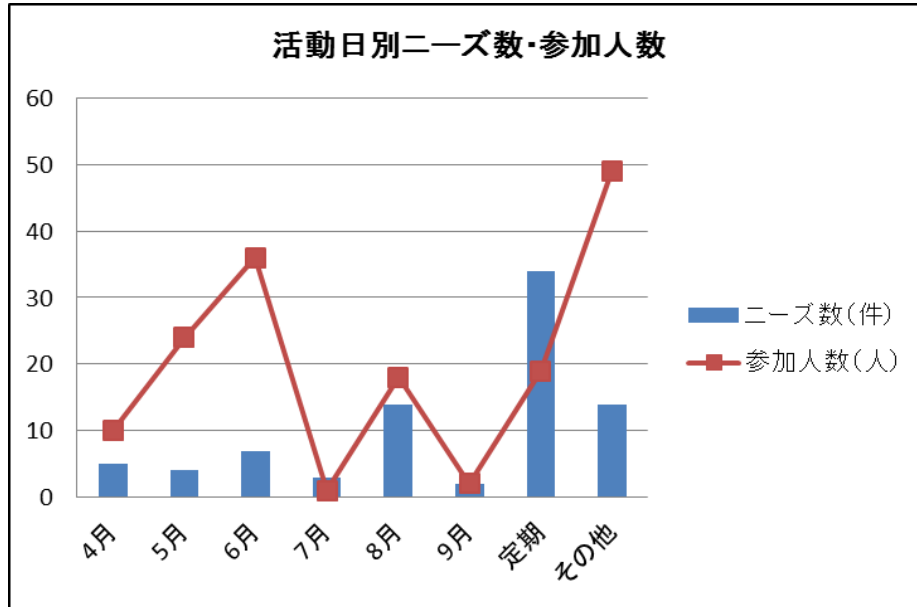
図①-1 分類別のニーズ件数



図①-2 分類別の参加人数

②活動日別

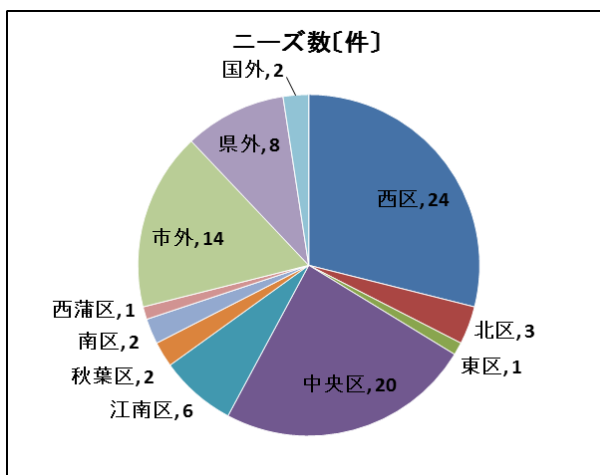
■活動日別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	定期	その他	計
ニーズ数(件)	5	4	7	3	14	2	34	14	83
参加人数(人)	10	24	36	1	18	2	19	49	159
うち一般学生(人)	3	0	7	1	8	1	12	46	78



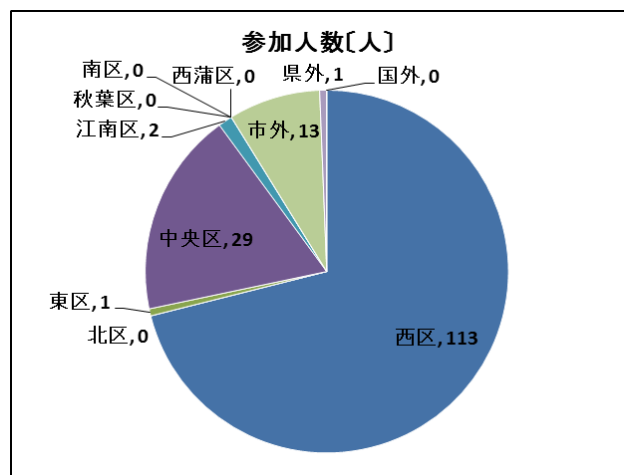
図②-1 活動日別によるニーズ数と参加人数の関係

③活動場所別

■活動場所別	西区	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西蒲区	市外	県外	国外	計
ニーズ数(件)	24	3	1	20	6	2	2	1	14	8	2	83
参加人数(人)	113	0	1	29	2	0	0	0	13	1	0	159
うち一般学生(人)	55	0	1	9	1	0	0	0	11	1	0	78



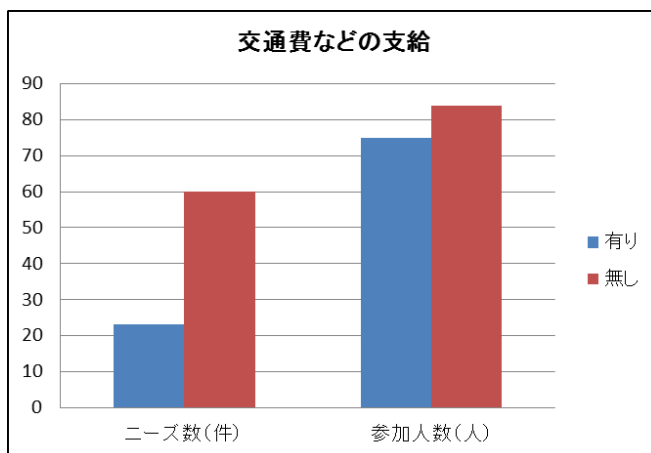
図③-1 活動場所別のニーズ件数



図③-2 活動場所別の参加人数

④交通費などの支給の有無

■交通費などの支給	有り	無し	計
ニーズ数(件)	23	60	83
参加人数(人)	75	84	159
うち一般学生(人)	51	27	78



図④-1 交通費などの支給の有無によるニーズ数と参加人数

【考察・今後の課題】

①ボランティア分類別

図①-1、図①-2が示す通り「保健・医療」および「国際交流」のニーズ数及び参加人数が少ないことがわかります。「国際交流」については、活動場所が国外のものもあり、学生の安全が保障できないことから当団体としても積極的な広報を控えていたことが要因の一つと考えられます。これからは、国内で活動できる国際交流系のボランティア（外国の方との交流など）を積極的に広報していきたいと考えています。国際交流系のニーズはもともと少ないこともあるため、当団体も自主的にニーズを収集することが必要だと考えます。「保健・医療」については、ボランティアの分類があいまいなため、活動事例が似ている「福祉」などとして広報してしまったことも要因の一つと考えられます。今後は、スタッフ内で分類の基準を明確にしておくことに加え、一般学生に対しても分類の基準を明確に提示していき、興味のあるボランティアについて容易に把握できるしくみづくりにつなげていきたいと考えています。

②活動日別

図②-1に示す通り、ニーズ数については「定期」のものを除けば8月がもっとも多いです。活動日が8月中であるボランティアの締め切りは7月中であるものが多いのですが、学生は試験期間中のためボランティア申し込みをしづらいです。実際、試験期間が終わり夏期休業へ入ると「夏休み中、何かボランティアへ参加したい」という問い合わせが増えますが、多くのニーズで締め切りが過ぎてしまい、結果的に多種のボランティアを紹介できないというのが現状です。そこで今後は試験期間に入る前に「夏休みのボランティア特集」といったような広報を重点的に行うとともに、学生に早めのボランティア申し込みを呼びかけていきたいと考えます。また、活動日が7月であるものは参加人数が少ないです。これは、学生が試験期間のためボランティア参加に消極的になるためだと考えられます。この旨はニーズ先にもしっかりと伝え、理解していただくことが重要だと考えます。

③活動場所別

活動場所別にみると、図③-1に示す通り、市内ではニーズ自体が西区や中央区に集中しています。今後は当団体について、各区の社会福祉協議会などに知ってもらい、ニーズを紹介していただける環境を整えることが必要だと考えます。ただし、図③-2に示す通りボランティア参加者の多くは西区での活動

に参加しています。これは、学生が身近で活動できるボランティアを望んでいることの表れであり、西区以外に住んでいる学生などに対して自宅周辺で活動可能なボランティアを紹介することにより、西区以外での参加人数増加に努めていきたいと考えています。同時に西区でのボランティア等学生が身近に参加できるニーズの収集に努めたいと考えています。

④交通費などの支給の有無

図4-①に示す通り、交通費などの支給の有無による参加人数の違いはあまりありません。これは③「活動場所別」でも述べましたが、学生にとっては費用の面よりも活動場所に重点を置いているためだと考えられます。一方で交通費などが支給されていても参加するための費用が赤字になるものもあり、そうしたボランティアには参加するのをためらうという意見があるのも事実です。ニーズ先にその事実を伝え、学生がより参加しやすい環境を整えていただくことも必要だと考えます。

全体を通して

9ページ「平成26年度前期 ボランティアニーズ一覧」に示す各ボランティアの参加人数には大きな差があります。学生が参加する場合、部活・サークル等の団体で参加することがあり、このような結果となっています。個人として参加することには抵抗があることもあり、学内の様々な団体を巻き込み、ボランティアを広報していきたいと考えています。今後は、そのためのしくみづくりとして何ができるかを考えていきたいです。

また、一般学生の参加人数合計は78名と全学生数から考えるとまだまだ当団体を通してのボランティア参加率が低いのが現状です。これは、学生にとってボランティアがまだまだ身近な存在ではないことに加え当団体の存在が知られていないことが要因の一つと考えられます。今後も当団体を多くの一般学生に知ってもらう取り組みを続けるとともに、まずはボランティアの良さを一般学生に知ってもらうため、まだボランティアに参加したことのない学生に対して広報を重点的に行うなどの取り組みも考える必要があります。

【おわりに】

今回、このような分析を初めて行いました。それにより、スタッフ自身もボランティアニーズや参加人数についての現状を知り、今後の活動の方向性を共有することができました。今後ともこういった分析を続けていくことで、当団体の活動が学生のボランティアに対する意識の変化にどのようにつながっていくか検証していきたいと思います。また、データの正確性に欠ける部分も見受けられたので、今後は正確なデータの収集に努め、今回行わなかった新たな視点での分析も考えていきたいです。

文責：秋山優太（工学部2年）

=公開版では省略させていただきます=

=公開版では省略させていただきます=

4. 各プロジェクト報告

データ管理プロジェクト

【概要】

以前のボランティアに関するデータ管理には、ニーズシートを一冊にまとめたファイルを利用していました。ニーズシートには個人情報なども掲載されているため、カウンター利用者に自由に見て頂くことはできませんでした。また、全種類のボランティア情報が一括してまとめられており、ボランティアに参加希望の学生に対し、どのような内容のボランティアがあるのか紹介することに難点がありました。

【目的】

- ・これまでボランティアに参加したことの無い学生にもボランティアに関心を向けてもらう。
- ・カウンターでスタッフに声をかけなくても、手軽にボランティアの詳細を知ってもらうことの出来るしくみを作る。
- ・募集中のボランティアの情報を見やすくまとめる。いくつかの分類に分け、学生に紹介する際に利用できるようにする。

【内容】

1. ボランティアの分類分け、および一覧表示によるデータ管理

これまで一括して管理していたボランティア情報を、福祉、教育、環境、国際などの分類に分け、数字を振りました。また、エクセルを用いてそれらのボランティア情報を整理し、特定の分類のボランティアに関する情報だけを表示することが可能になりました。

なお、分類は 10 ページに示した表をもとに、5 ページ「3. ボランティアニーズ・参加人数等の報告と分析」で述べた方法と同様に行いました。

2. 回転式ラックの利用

分類したボランティア情報を、その分類ごとにファイルに入れて、ファイルを回転式ラックに入れました。回転式ラックは、学生談話室内の当団体カウンターから少し離れた所に設置しました。情報の表示には、当団体が作成している「ボランティアニーズシート」のコピーを利用していますが、連絡先などの個人情報の部分は非表示にすることで、誰でも自由にファイルを見ることが可能になりました。

【成果・課題】

特定の分類のボランティア情報だけを見ることが可能になったことで、カウンター利用者に対し、素早い対応が可能になり、回転式ラックの利用により、学生が談話室内でゆっくり気軽にボランティア情報を見ることも可能になりました。また、回転式ラックはカウンターからも遠く、様々なボランティア情報を自分で見てみたいという学生や、スタッフに声をかけることに抵抗がある学生でも、ボランティア情報を詳しく知ることが可能になりました。これまでは、直接カウンターにいるスタッフに声をかけないとボランティア情報が得られませんでした。回転式ラックを設置したことで、偶然談話室を利用した学生にも、気軽にファイルを手に取って見てもらえるようになりました。

課題として、分類の仕方や、PC の操作にスタッフの間での差があり、より効率的なカウンター対応のため、新しい一覧の活用を全員で積極的に進めていく必要があります。また、回転式ラックと各分類

別ファイルは閲覧をより自由にするため、現在はひも等で繋がっておらず、紛失の可能性があります。

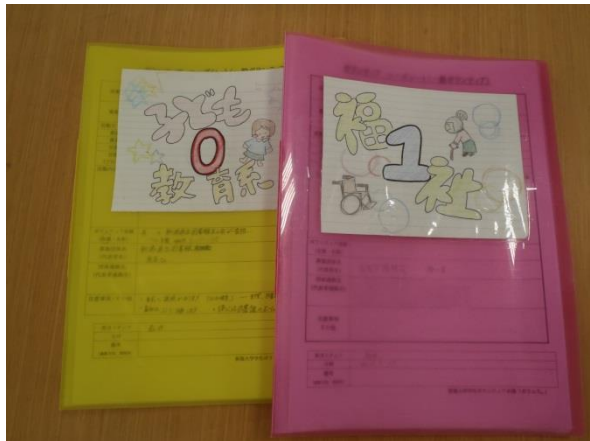
【今後に向けて】

これからのカウンター業務において、全スタッフが積極的にエクセルのボランティア一覧を活用していく必要があります。また、回転式ラックと各分類別ファイルを繋ぐのかどうかについては、ボランティア情報の閲覧の自由性とファイルの保護について改めてスタッフ内で話し合い、結論を出していく必要があります。

文責：眞野明日香（工学部1年）



回転式ラック



分類分けしたボランティア情報

掲示板プロジェクト

【概要】

当団体は、総合教育研究棟に2か所（学生談話室内、入り口付近）、工学部棟、理学部棟、農学部棟に各1か所、以上の計5か所に掲示板を設置しています。

しかし、長期間同じものを掲示していたり、ポスターの統一感があまりなかったり、情報の伝わりやすさに欠けていたといえます。

【目的】

掲示板を通して、学生へボランティア情報を分かりやすく発信し、かつ、当団体自体にもっと親しみやすさを感じてもらおう。

【内容】

1.当団体についての情報発信

- ・当団体カウンターへの地図
- ・当団体の Twitter・Facebook アカウントの QR コードを作成、掲示しました。

2.ポスターのフォーマット化

これまでポスターは、手書きのものが中心でした。

しかし、見やすさ、作業時間の削減といった観点から、word ファイルでの作成に移行し、ニーズ先から送られてきているポスターもそのまま利用するようにしました。

3. 通年募集のボランティアのファイリング

通年募集のボランティアに関しては、長期的に掲示することでスペースをとったり、紙の劣化が生じたりするため、「教育系」と「その他」の2種類に分け、ファイリング一括掲示しました。

特に学習支援ボランティアは数も多いため、各々の活動場所の地図を記載しました。

4.工学部棟の掲示の仕方の変更

工学部棟はホワイトボードでの掲示となっています。これまでセロハンテープでポスターを貼っていたため、剥がした跡が残ってしまい、全体的に雑然としてしまっていました。そのためマグネットに変更しました。

【成果・課題】

ポスターを「全て手書き」から「一部手書き」へ転換したことで、仕事の能率を上げられたことが、プロジェクトのひとまずの成果であったと思います。

また、とくに総合教育研究棟では、以前よりも掲示板を見るのに立ち止まる人が増えたように感じます。

しかし、まだ当団体についての情報発信が不十分で、カウンターを訪れる人の数の増加には直結できていないように思います。

【今後に向けて】

前期は、見やすさというものに重点がありました。そのため、振り返ってみると、掲示物の整理が主になっていたように思います。

後期は、各々の学部の特徴に合わせて掲示の仕方を工夫したり、当団体と学生の距離をもっと近づけられるような掲示物を企画したりしたいと考えています。

また、使用していない掲示板が学生談話室内にあるので、未設置の学部へ設置の打診をしていきたいです。

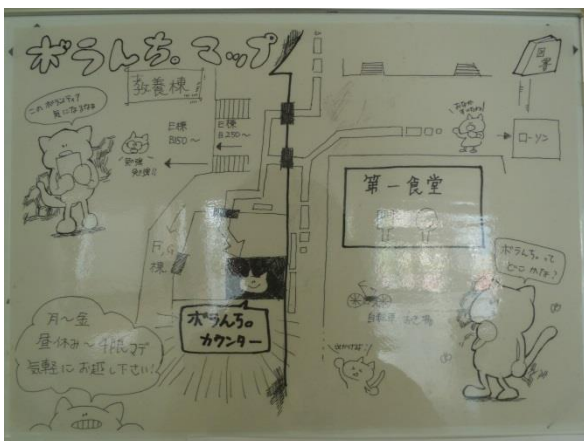
文責：竹内佑衣（法学部2年）



掲示板（学生談話室外）



掲示板（工学部棟）



当団体カウンターへの地図

メールマガジンプロジェクト

【概要】

現在、当団体を利用してボランティアに参加する学生の数はあまり多いとはいえません。その対策として、昨年から Twitter や Facebook 等の SNS を利用した広報も始めましたが、あまり効果を上げることができませんでした。さらなる広報強化の一つの方法として、ボランティアに興味を持っている人に直接情報を配信するメールマガジンという方法を選択することになりました。

【目的】

- ・ボランティアをする学生をさらに増やすための広報強化の一環
- ・当団体を学生に知ってもらい、ボランティアに興味を持ってもらう

【内容】

メールマガジン配信の準備として、メールマガジンの周知を学務メールを利用してできるかどうかを大学側に尋ねました。また、どのように配信するかを検討しました。

【成果・課題】

現在、「まぐまぐ」というサイトを使用し、運営サイトからのメールマガジン配信の許可を待っている段階です。10月に行われる新大祭に間に合うよう、配信準備を進めています。今回、このプロジェクトを進めていくにあたっての課題は、専用のソフトを使うと保守・管理が大変であり、フリーソフトを使用すると広告も配信される恐れがあるため、どちらを使用すればよいかを決めかねていたことです。最終的にはフリーソフトを使用することで落ち着きました。

【今後に向けて】

今後は、週に一回の配信を予定しているため、継続して配信していくことが大切です。また、以前大学にお願いしていた学務メールを利用してのメールマガジンの周知を今年中には行うので、その準備も進めていきます。

文責：山田将和（人文学部2年）

5. 研修会・ボランティア参加報告

ボランち。パワーアップ研修

【概要】

当団体は、ボランティアコーディネートを活動の軸に置く団体です。ボランティアコーディネーターは、ただ単に「ボランティアをやって欲しい人」と「ボランティアをやりたい人」を繋ぐことではありません。全国でも「特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会」が“ボランティアコーディネーション力検定”を実施しているように、コーディネーターにはスキルや正しいマインドが求められます。学生という身分ではありますが、1人1人がコーディネーターである当団体では、上級生のスキルアップと新入生のコーディネーターとしての研修も兼ねて、自主勉強会を行いました。講師には、普段から当団体もお世話になっており、地域のボランティアコーディネーター活動を行っている西区社会福祉協議会の皆様方をお招きしました。当日は3名の講師の方と、当団体の15人のスタッフ（1～4年生）が参加しました。

研修会の詳細については、20ページ以降の資料①～③で詳しく説明します。

【内容】

研修会では、まず“ボランティア”や“ボランティアコーディネーター”について講義をしていただいた後、事前にお伝えしていた当団体スタッフの疑問や悩みについて回答して頂きました。そして、普段私たちが困っていたボランティア依頼についての実際の事例を用いて、コーディネーターとしての在り方や役割を学びました。その後、魅力あるボランティアプログラムづくりのためにはどのようにしたら良いかを、グループワークを通して考えました。

グループワークでは、当団体スタッフと講師の方々とが混ざったグループ編成により、スタッフ同士だけでなく、社会福祉協議会の皆さんも交えた対話が生まれる場になり、研修を通して当団体スタッフとの交流も図られました。

【総括】

当団体スタッフの参加者の感想から、今回の研修でボランティアコーディネーターに関する知識について学んだだけでなく、コーディネーターとしての在り方、そしてボランティアというものに対する考えも深めることが出来たように思います。

今回この研修会を通して学んだことは、当団体の活動内容を見直す上で、そして地域や大学の中での在り方を考える上で重要な基礎となりました。今回学んだ知識をスタッフ一人一人がきちんと自らの活動に活かしていくと同時に、これからも西区社会福祉協議会のみなさんと円滑な連携をとり、お互いにより良い活動が展開出来るよう、関係性を深めていきたいです。

文責：角野仁美（教育学部2年）



講義の様子



ボランティアプログラムの開発研修



講師の皆さんとの集合写真

(資料①) ボランち。パワーアップ研修 詳細

【日時】平成 26 年 6 月 29 日 (日) 9:30~12:00

【場所】新潟大学駅南キャンパスときめいと 講義室 B

【講師】新潟市西区社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター (田巻さん、鈴木さん、藤田さん)

【参加者】1 年生 7 名・2 年生 3 名・3 年生 3 名・4 年生 2 名 計 15 名

【配布資料】

- ①ボランティアはじめの一步
- ②はじめてのボランティア
- ③平成 26 年度 6 月 29 日「ボランち。」パワーアップ研修 (スライド資料)
- ④個人ワークシート (事例①・事例②)
- ⑤プログラム設計ワークシート
- ⑥ボランち。パワーアップ研修 ふりかえりシート

【プログラム】

	時間	内容
講義	25 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとは？ ・社協はなぜボランティア活動を推進するのか ・社協のボラセンとはどんなトコ？ ・ボランティアコーディネーションとは？ ・ボランティアコーディネーターの 8 つの役割
ワーク	25 分	<p>事例をもとに考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の事例について (介護ボランティア・学習支援ボランティア) をもとに、各自どちらかの事例を選んで募集依頼を受けるか、受けないかワークシートに記入しながら考える ・考えを数名が発表
休憩	10 分	
質問	15 分	<p>事前に送った質問に対する回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆情報共有をしっかりとる (担当者がいない時も対応できるように) ☆ニーズさんと直接会って話をする (遠い場合はカウンターに来てもらうのもよい) ☆労働とボランティアは違う <ul style="list-style-type: none"> →ニーズさんにきちんと伝える ☆ボランティアさんに無理をさせないのも、コーディネーターの役割 ☆遠い場所でのボランティア <ul style="list-style-type: none"> →断るのも一つの手段 →交通費等は基本的に自費負担 → (震災等) 現地に行かなくてもできることがある ☆特定の団体とかかわることはどうか？ <ul style="list-style-type: none"> →ボランティアさんのすそのを広めることも重要

講義	15分	魅力あるボランティアプログラムづくり <ul style="list-style-type: none"> ・成功するプログラムへの13の要素 ・なぜプログラムづくりが必要 ・人はなぜボランティアをするの？ ・プログラムづくりの視点
ワーク	50分	ボランティアプログラムづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアさん呼び込むためのプログラムづくり ・1グループ5人程度でシートを記入しながら考える ・各グループ発表 <p>「遠隔地ボランティアに対する付加価値」</p> <p>「社会の役にたとう～気軽に楽しい思い出を～」</p> <p>「潜在層開拓プログラム ～人と地域と出会う～」</p>

(資料②) 研修会で取り上げて欲しい事例・社協さんへの質問

(研修会の事前に当団体スタッフから集めたもの)

【事例】

- ・介護ボランティア
- …障害のある方が個人的に自分の介護を学生ボランティアに依頼している。→経験の無い学生に対してこのようなボランティアを募集してもいいのか？
- ・海外ボランティア…海外の発展途上国に現地集合のボランティアは本当に安全？
- ・学習支援ボランティア
- …小学生のお子さんを持つお母さんから、大学生にボランティアとして子どもたちに勉強を教えて欲しいと問い合わせがあった。→個人でのボランティア以来はどこまで受けるか？

【社協さんへの質問】

- *学生コーディネーターとしてどこまでやればいいのか？(学生、依頼者双方へのアプローチ)
- *ボランティアセンターとしての位置づけが良く分かっていない。ある特定の団体と関わることは、あくまで中立的なボランティアセンターとしては控えた方がいいのか？
- *SNSの情報発信の仕方…何をどう伝えればいいのか、適切な情報量なども。
- *情報共有について
- 学生さんからあるボランティアの説明を求められた場合、担当以外のスタッフだけでは上手く説明できない場合があるので、職員間ではどのように共有しているのか。
- *広報の手段には何があるのか
- どのようにボラ情報を集めているのか、それとも自然と集まってくるのか。
- *ボランティア希望者への支援について
- 具体的に言うと、ボランティアを紹介する際に現地に行けるかどうか割と大きな壁となっている気がして、行きたくてもいけないような人に対して何らかの支援があったりするのか。
- *学生がボランティアへ参加する際、「ボランち。」が交通費を補助することについてどのように考えるか
- *ボランティアコーディネートをする時の心構え、注意
- *ボランティアとは？
- *ニーズさんとの関係をどうするべきか?(力関係みたいな)
- *社協さんがボランち。に思うことを聞きたいです!(要望やボランち。に対する考えなど)
- *それぞれの区(西区だけじゃなくて中央区とかも)で独自の取り組みはあるのか
- *社協で働きたいと思うようになったきっかけをぜひ教えてもらいたいです!
- *社協さんが以前、新潟大学で「西区社協の説明会」を開かれていたが、このように外部団体の方が新潟大学で説明会を開催する際にはどうすればいいか？

(資料③) ふりかえりシートまとめ

(研修会終了後、当団体スタッフが記入したものをまとめたもの)

■今日一番心に残ったこと

- ・「ボランティアを派遣する前にコーディネーターが事前確認」するという事は、とっても重要なのに見逃していたなとすごく感じました。
- ・付加価値をどのようにつけるのかを話し合ったこと。
- ・付加価値をつけること。コーディネーターの受け止め、その後のアクションの大切さ。私たちがもっと知識を身につけなきゃ…と感じました。
- ・ニーズとボランティアさんを対等につなぐということ。付加価値をつけることもそうだが、活動内容を明確化して付加価値を見出してもらうことも大切だと思った。
- ・コーディネーターとして、ボランティアをする人は「対等な関係」にすることが大切。
- ・ボランティアさんを守ることもボラセンの大切な仕事の1つということ。
- ・ボランティアコーディネートをする側が、ボランティアに参加する人たちを守るということが、印象に残りました。ただ人と人をつなげるだけでなく、活動後にそのボランティアに関わった人すべてが良かったと思える関係づくりが大切なんだと感じました。
- ・人脈づくりが大切だということ。
- ・“プログラムづくりの視点”の説明で、「スタッフが必要と言っても、施設の利用者さんたちは、そうは思っていないかもしれない」というお言葉。ハッとさせられた。
- ・一般の方が取り組みづらいと考えているボランティアだとしても、私たちが工夫してハードルを低くできれば、参加者を増やせるのだということ。
- ・魅力あるプログラムづくりについて（ただ広報するだけではなく、より魅力をもってもらふことの必要性を強く感じた）
- ・私はあまりコーディネートをしたことが無いまま参加してしまいました。ボランティアセンターの役割などを知ることが出来たことが大きな収穫になりました。
- ・ボランティアコーディネートしたことが無いので、自分でも出来るが不安だったが、1人で考えずに、情報を共有することが大切だと分かって良かったです。
- ・ボランティアコーディネートの定義がしっかり分かった。（今まで分かっていなかったのだから）
- ・ボランティアコーディネートの仕事が、こんなに幅広いなんて思わなかった。
- ・個人ワークシートの事例②のケースを考えることが楽しかったです。
- ・改めて、ボランティアって何…？という思い。学生ボランティアコーディネーターとして、出来ること、だからこそ出来ることをもっと打ち出していきたい。地域に対しても、学生に対しても、もっと私たちから発信していきたい！

■今日一番嬉しかったこと

- ・ボランティアコーディネートに関する悩みを社協のみなさんと共有出来たこと。
- ・プレゼンが上手くいったこと。
- ・人が「なぜ」ボランティアをするのか、ということが少し明らかになったこと。
- ・すごく楽しそうなボランティア企画が出来たこと。
- ・ボランティアさんとニーズさんをつなげる苦勞がたくさん聞けたこと。今後の活動に反映させたい！

- ・社協さんと初めて直接お会いすることが出来たこと。
- ・社協さんの話で新たな知識を得ることが出来たこと。
- ・質問を通して様々な事例を知れたこと。
- ・ボランティアコーディネートについて多く知ったこと。知識を増やせたこと。
- ・ボランティアコーディネートに対する知識を深めて、ボランティアそのものについての認識を改めて自分の中で整理出来たこと。自分にとってすごく良かったと思います。
- ・グループワークや個人ワークで他のメンバーの意見を聞いたことです。
- ・実際の事例をみんなで考えたり、プログラムを考えたり出来たのが良かったです。
- ・ワークショップで、自分の意見、他人の意見を聞くことが出来た。
- ・グループワーク
- ・社協さんが私たちを認めてくれたこと。このような機会を提供して下さったこと。
- ・“1人で抱えなくていい”の言葉。
- ・みんなが真剣に取り組んでくれたこと。
- ・こういう場を設けてもらったことで、自分の中のボランティアとボランティアコーディネートに対する考えが変わった。

■今日一番残念だったこと

- ・ボランティアと仕事が生かされているような内容のボランティアが存在すること。
- ・ボランティアと労働（仕事）の区別が難しいと感じたこと。
- ・ないです！すべて良かったです！
- ・ないです！色々知ることが出来て良かったです！
- ・特にないです！（もっと時間があっても良かったかも…）
- ・時間が足りなかったこと。
- ・時間があればもっといろんなことを聞きたい！話し合いたい！
- ・なかなか参加者が集まらないこと。
- ・自分自身コーディネートを体験してから研修に参加したかったことです。勉強、経験不足ですみません。
- ・自分のボランティア経験、コーディネート経験が少なくあまり話せなかったのが残念でした。
- ・事前に作成していた質問用紙を皆に配れば良かった…。

■これからやってみたいこと

- ・潜在層を開拓するようなイベント。
- ・新しい団体との繋がり、共催。
- ・人脈を広げることの大切さを感じたので、これから積極的に様々な人との関わりを拡げていきたいです。
- ・ニーズさんとの顔合わせはやってみたい。
- ・依頼主さんと出会う、人脈を広げたい。
- ・きちんと情報を整理すること。
- ・募金、学習支援。
- ・ボランティアの企画（もっと取り組みやすく、学生が興味をもちそうなもの）

- ・今日行った“プログラム設計”を生かしたボランティアコーディネート
- ・広報を今まで以上に工夫を凝らして、ボランティアへ来る人を増やす。
- ・ニーズに添った広報を行っていききたい。(ボランティアしたい！思ってくれるような広報の仕方を考える)
- ・色々な方に参加してもらえるようなボランティアを広報したい。今日の発表を参考にして、新たなプログラムを考えたい。
- ・ボランティアコーディネートをやってみたいです。まずは経験したいです。
- ・障がい者や高齢者の方と関わることが多いので、その方々へのボランティアをコーディネートしてみたいです。(参加してくれる人が増えるようなコーディネートを！)
- ・今日学んだ、ボランティアの事例の見分け方、プログラム作成を日々の活動に活かしたい。
- ・今日からクリーンデーの企画を生かすこと！
- ・“学生ボランティア”というものの認識を変えて行けるような、地域に対する発信。
- ・改めてボランち。内での意識の共有化と、今よりもっと上手く情報が共有できる仕組みを考えること。
- ・ニーズとボランティア両者を対等につなぐことで、お互い気持ちよく終われるようにすること。

■社協さんにもっと聞いてみたいこと

- ・社協さんの仕事について
- ・個人依頼のボランティアはどこまで受け入れれば良いか。
- ・ボランティアの依頼が来た時に、聞いていること・注意していること
- ・具体的なボランティア依頼への対応法
- ・災害時のボランティア対応(ボランち。は元々中越地震がきっかけで設立されましたが、引き継いでいません…)
- ・災害ボラセンとして、もし災害が起きた時、どのように行動すればいいか。
- ・災害時の対応はどうすればいいか？(災害ボラセンの立ち上げ方など)
- ・ボランティア広報の工夫の仕方。
- ・“学生ボランティア”というものに対する、認識(地域からの・社協からの)

■その他♪

- ・本当に貴重なお時間をありがとうございました。今後も本当によろしくお願い致します！
- ・今日はありがとうございました！
- ・今日はありがとうございました！今後とも、よろしくお願いします！！
- ・ずっと心の中にあった「ボランティアって何？」という初歩的ながらも難しい思いが解消されてスッキリしました。
- ・まだまだ知らないことがたくさんあると思った。
- ・今のボランち。には“まとめる”という振り返る機会が足りないと気づかされました。ただボランティアを流すだけでなく、一回立ち止まってみるのも大切ですね。
- ・ボランティアの基本に戻って良く考え直してみたいです。
- ・また社協さんとの交流の場を増やしていけたらいいなと思います。
- ・就職活動中の者です。社協さんについてもっと調べてみたいと思いました。(新卒は少ないとのお話ですが)

- 学校の授業でも一度、お話を聞かせて頂きました。今回は、さらに詳しい話が聞けて嬉しかったです。これから4年間でたくさんの方と繋がっていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました！
- このような講習会は今日が初めてでしたが、非常に有意義な時間を過ごせました。本当にありがとうございました！
- 企画から今日まで、本当にありがとうございました。これからも、良い関係を築かせて頂けたらと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します！
- 自分のもやもやが少しスッキリしました。ワークとかもっとやりたいです！是非第二回を期待します (>_<)

災害ボランティアセンター設置訓練

【概要】

平成26年7月6日に西区役所健康センター棟において新潟市西区社会福祉協議会ボランティア市民活動センター主催の「災害ボランティアセンター設置訓練」が行われました。訓練には新潟市内の各区社会福祉協議会の皆様をはじめ、市内各社会福祉協議会、西区訪問介護センター、西区まごころヘルプ、立仏ひまわりクラブ、新通第一ひまわりクラブの皆さん総勢25名が参加され、それに加え当団体からも8名が参加しました。

【内容】

当日はまず、NPO法人にいがた災害ボランティア・ネットワークの佐藤氏の講義をお聞きしました。講義は「災害ボランティアセンターの意義と役割」というテーマで進められ、災害ボランティアセンターの知識・役割、社会福祉協議会と災害ボランティアセンターの関わり、災害ボランティアセンタースタッフとしての心構えなどについて学びました。その後、実施訓練①として「災害ボランティアセンター本部会議」運営訓練を見学した後、午後から行われる立上げ・運営訓練に向けて班ごとに活動内容の確認・打ち合せなどが行われました。当団体スタッフも受付・ニーズ・マッチング・送出しの各班に分かれ、それぞれの班のミーティングに参加しました。また、午前終了後には非常食の試食も行われました。

午後からは実施訓練②として「西区災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」をもとに、実際にボランティアセンターを立ち上げ、運営する訓練が行われました。各班のメンバーが半数ずつボランティア役とセンター運営役に分かれ、役割を交代しながら行いました。なお、今回の訓練は実際に新潟市西区の河川が氾濫し、浸水被害が発生していることを想定したため、本格的に行われました。その後、ワークショップが行われ、マニュアルの改善点・追加点の確認、各班の訓練の反省や全体の総括をしたのち、解散となりました。

【総括】

今回、実際にボランティアセンターを運営する体験をしましたが、訓練であるにも関わらず、スムーズな対応や判断ができず、全体の流れやそれぞれの役割を完全に把握していないと、待ったなしの状況では冷静さを欠いてしまうと痛感しました。そして、各人に臨機応変な動きと、細やかな気遣いが必要だとも感じました。また、訓練の反省をしたり、マニュアルの改善点や追加点などを共有させていただいたことにより、社協職員の皆さんの視点からもたくさんのことを学ばせて頂きました。

「ボランち。」は、今年で発生から10年を迎える「新潟県中越地震」の際に新潟大学の災害ボランティアセンターとして活動しました。しかし、当団体の原点である「災害ボランティアセンター」についてスタッフ自身が学ぶ機会が少なかったため、今回の訓練は災害ボランティアセンターについて考える良い機会となりました。

災害が発生した場合、当団体も新潟大学の災害ボランティアセンターとして活動する可能性があります。災害時にスムーズに行動するためにも、普段からの備えが必要であり、今回のような訓練への参加も重要です。当団体のみで訓練を行う必要もあるかと思いますが、こうした本格的な訓練は実施することは難しいです。そこで、今回のように様々な団体が行っている訓練などへ積極的に参加させていただ

くことで経験を積むとともに、日頃の活動でも災害について考え、スタッフ同士で意見を交換することで今後起こり得る災害に備えたいと思います。また今後は、訓練への参加に加え、災害発生時の行動の流れや大学の動きなどの把握にも努めていきたいと思います。

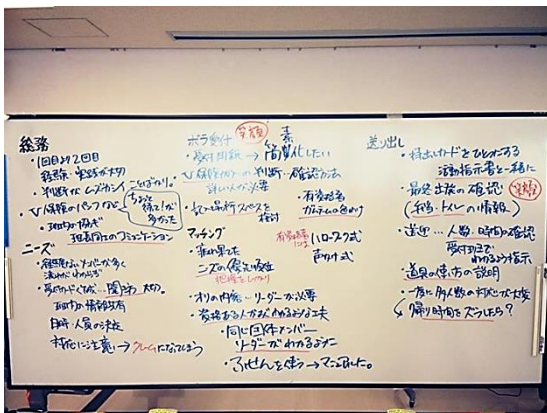
文責：秋山優太（工学部2年）



講義の様子



災害ボランティアセンター本部会議



訓練の反省・総括



試食した非常食

学内ゴミ拾い散歩

【概要】

学内ゴミ拾い散歩とは、当団体が約月一回の頻度で行なっている、キャンパス内のゴミを拾って、学生のゴミについての意識を高めようとする企画です。

一般学生からも参加者を募って、当団体スタッフと共に学内を回ります。

【内容】

前期は5月に1回、6月に1回放課後に新潟大学五十嵐キャンパスを巡回し、ゴミ拾いをしました。各階人数は4~6名ほどでした。4月、7月にもゴミ拾いの予定はされていましたが、天候に恵まれず中止となりました。そのため、前期では2回となりました。清掃場所は毎回異なりますが、総合教育研究棟周辺や、西門の駐車場、第二食堂前などを清掃します。一般学生の参加者は1, 2人ほどでした。

【総括】

前期の学内ゴミ拾い散歩を行ってみて感じたことは、人があまり通らない所、例えば草むら、ゴミ置き場の周りにごみが大変多くありました。ごみの種類は、ペットボトル、食べ物の袋、空き缶が主でした。また、タバコの吸い殻が西門入口に目立ち、学生のモラル改善が必要だと考えられます。これからもこの活動を続け、学生のごみに対する意識向上を図っていくべきだと私は考えます。

文責：鳴瀬佑樹（理学部1年）



5月に実施した学内ゴミ拾い散歩の様子

コスポ学習支援ボランティア

【概要】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴い、避難所として開放された新潟市西総合スポーツセンター（コスポ）には、多くの人々が避難していました。そこでは、十分に遊んだり、勉強したりすることが出来ない子どもたちが多くいました。そこで、近隣の方や小学校の先生、新潟大学の学生と協力し、コスポ学習支援ボランティアが行われました。本活動は平成23年3月28日から避難所が閉鎖される直前の同年7月15日までの間行われました。その後、場所を新潟大学に移して同年9月16日より現在まで継続して活動しているものです。

【内容】

本活動は毎週金曜日に幼児から中学3年生を対象として行われました。教育学部107号教室を活動場所とし、18時から19時までの1時間、子どもたちに国語や算数などの科目を中心に学習指導を行いました。子どもたちは学校の宿題や各自が用意した教材などを用いて、熱心に学習に取り組みました。問題に取り組む中で、疑問点があった場合、子どもたちは学生に積極的に質問し、学習の理解を深めていました。学生も子どもたちの疑問点を丁寧に指導したり、学習方法をアドバイスしたりしました。また、学習を指導するだけでなく、子どもたちと学校生活について話をし、子どもたちとの交流を深められました。子どもたちの中には、勉強中に遊びだす子どもの姿も見られましたが、震災で大変な経験をし、普段わがままを言えずにいた子どもたちに、安心してわがままを言える場を提供することができたのではないかと思います。新しい活動としてはピクニックやハロウィン、クリスマス会などのイベントを開いており、ますます交流を深めています。勉強会に参加する子どもたちの人数は毎週7～10人くらいで推移しています。

【総括】

本活動は子どもへの学習支援を行うだけでなく、子どもたちの心の支えになっている点と新しく活動に参加する子どもたちも増えている点から引き続き活動していく必要があると思います。学生にとっても、子どもたちの元気な姿に励まされるとともに、子どもに勉強を教えるという体験をすることができるという点で意味がある活動だと思います。また、東日本大震災についても考えることができました。今後も本活動は子どもたちのニーズがある限り、子どもたちの声に耳を傾けながら、子どもたちにとって楽しい活動を心がけていきたいです。

文責：藤井元暉（工学部2年）

大学南が丘自治会 防犯パトロール

【概要】

7月初旬から9月中旬にかけて、ほぼ隔週の間隔で、大学南が丘自治会主催の防犯パトロールが行われました。自治会の方々だけでなく、キャンパス町内会等で日程の確認を図りながら、新潟大学からも環境系サークル「ひまわり」、「ROLE」、そして当団体からの参加者がありました。活動の概要としては、19時過ぎから大学南が丘自治会に属する地域の中を歩いて周り、地域防犯力の向上を目指すものです。

【内容】

防犯パトロールは毎年、大学南が丘自治会の主催によって行われています。自治会所属の方々はもちろんですが、新潟大学からも主に環境系サークルに所属する学生をはじめ、当団体からも参加者がある活動となっております。

内容として、参加者が2つに分かれ、2つのコースで自治会区域を回ります。電灯切れを確認したり、危険な箇所を自治会の方とともに確認したりして回りましたが、その度に自分も気をつけなければと、感じるが多かったように思います。大学の周辺ということで、学生が大勢住んでいるのは言うまでもありませんが、地元に住む人びともともに暮らしています。特に大学南が丘自治会区域は道幅が狭く、夜間はとても危険であるという印象を受けました。車、自転車、バイク、歩行者それぞれが気をつけなければいとも簡単に事故が起きてしまうとも感じました。

【総括】

自治会の方々だけでなく、大学生も自らが住むまちとして、その安全に貢献することは、たいへん良いことであるというのが私の率直な感想です。また、この防犯パトロールは単なる「防犯」という意味合いだけでなく、地域の人びとの社交の場になっているとも感じました。

今後も継続して、そして大学生も地域の人びとに加わって活動できればと、思います。

文責：日野稜馬（人文学部1年）

6. スタッフ総括

前期の活動についての反省点や気づいたことを、当団体スタッフがアンケートを通して振り返りました。以下にまとめます。

- ・ボランティアの趣旨を理解して広報することが大切だと思いました。もっといろいろな学生にボランティアに参加してもらえるように、ボランち。のスタッフとして積極的に動いていきたいです。
- ・SNSやメルマガを利用して、より多くの人にボランティアが現在必要とされていることを伝え、まだ一度もボランティアに参加したことが無い人にも参加してもらいたい。
- ・ブログとHPは統合した方が良いと思います。
- ・悩み事は社協さんに相談するのが良い？（いろいろアドバイスもらえるかも）
- ・以前ボランティアをしてくれた学生に、何らかの形でアプローチするのも良いと思います。
- ・交通費について、学生の事情をニーズさんに知ってもらう努力もすべきだと感じた。
- ・広報の仕方も改善が必要。ボランティアだけでなく、ボランち。についてもっと知ってもらいえるようにしたい。
- ・前期は様々なボランティアに参加させて頂きましたが、ボランティア参加前、参加後の予習・復習（振り返り）が出来ませんでした。次のボランティアをより良いものにするためにも、自分自身を成長させるためにも、一回一回を大切にしていきたいです。
- ・メールマガジンへの取り組みをもう少し早く行いたかった。後期はベルマークに力を入れたい。
- ・後期に向けて、自分もボランティアに参加する上で、ボランティアの良さを自分自身感じ取り、人に伝えていきたいと思いました。
- ・後期は、地域のニーズさんと学生の、双方にもっとコミットしていきたい。新潟大学は1万2千人も学生がいるのに、上手くボランティアのマッチングが出来ていないことは、ボランち。の責任であると思う。地域と学生が上手く繋がれるような、仕組みづくりが出来るように、メンバーで協力して取り組んでいきたい。